

すべての人が心から安心して、どこへも自由に移動することができる—。 そんな喜びある未来へ向けて。

人間尊重。

わたしたちの企業理念には、とても強い思いが込められています。創業のきっかけとなった自転車用補助エンジン※1は、戦後の劣悪な交通環境のなかで、人々の生活を少しでも楽にしたいという思いから生まれました。グローバル企業の地位を確立したCVCCエンジン※2は、企業利益よりもまず、排出ガスに起因する健康被害から人々を守りたいと願って開発されました。技術をもって、「誰かを喜ばせたい」、「世の中の役に立ちたい」、「人間尊重」という、わずか4文字の言葉には、わたしたちが受け継ぎ育ててきた確固たる信念が込められているのです。

そうした信念のもと、Hondaは「Safety for Everyone」をグローバルスローガンに掲げ、クルマやバイクに乗っている人だけではなく、道を使うだれもが安全でいられる「事故に遭わない社会」の実現をめざしています。そしてさらには、「人を守る」だけではなく、人や社会をつなぐ原動力とも言える人間の「好奇心」を後押しし、移動の喜びを拓げていきたいと考えています。

わたしたちは今日、「自動運行装置」であるトラフィックジャムパイロット(渋滞運転機能)を実現したHonda SENSING Eliteと、それを搭載する新型LEGENDを発表します。しかし、単に「自動」であることが価値だとは考えていません。運転負荷を軽減し「うっかり、ぼんやり」ミスをひとつでも多く防ぐことで、「事故に遭わない社会」を一日でも早く実現し、移動の喜びを拓げることが、社会に届けたい一番の価値であり、わたしたちの願いです。

CONTENTS

開発コンセプト			
安全運転支援技術のあゆみP3	新機能詳細P9
開発の背景P4	ハズオフ機能	
Honda SENSING Elite		その他の機能P10
Honda SENSING EliteとはP5	ヒューマン・マシン・インターフェイス(HMI)P12
機能一覧P6	システム設計P14
作動イメージ(高速道路)P7	Honda SENSING Elite 搭載 新型LEGEND	
新機能詳細P8	(Hybrid EX-Honda SENSING Elite)	
トラフィックジャムパイロット(渋滞運転機能)		概要P17
緊急時停車支援機能		主要装備P18
		主要諸元/環境仕様P19

※1 1946年、旧陸軍の無線機発電用小型エンジンを自転車用補助エンジンに改造。のちに本田技研工業となる本田技術研究所を設立しモビリティ企業としての第一歩を踏み出す。
※2 世界中の自動車メーカーが、達成することはほとんど不可能と主張する米国の排出ガス規制「マスキー法」をクリアした低公害エンジン。1973年、シビックに搭載し発売。